

全国大会銀賞に輝く音楽部

苦しみ抜いた末、何とか東海地区の代表校に決定した。全国大会は、十一月六日東京音門館(五人収容)の大会場、全国十地区の代表によって競われた。流石の学校も、選抜された強豪揃いであり、どの演奏もはらりしく、自分達の演奏が、一番のチームワームによって勝った。

「東邦高校 銀賞」という発表があった時は、何となく今まで張りつめていた糸が、急にゆるんだ感じであり、ただ、部員生徒会員のチームワームによって勝った。

栄冠、この瞬間ホットした。一、二、怒生諸君の日頃のご支援助と協力を心から感謝し、より一その努力を重ね、愛され、親しまれる東邦高校吹奏楽部を築き上げたいものと思えます。

部長顧問 稲垣信哉

▽空手道部△

全国大会初出場なる

東邦高校空手道部が設立されてからすでに十年近くになる。部員も常時二十名ほど集まって、トレーニング室、平和堂近辺などで地道ではあるが熱こもった練習を続けてきた。その努力がようやくの全国大会初出場を果たした。経過は左記の通り。

・第三回愛知県高等学校空手道選手権大会  
於 東邦高校体育館(六月十九日)  
優勝 個人組手の部 伊村吉勝(二年)

準優勝 団体組手の部  
(団体組手の部で優勝した豊田工専は全国大会出場資格をもたないで、第二位校の東邦が出場権を得る)

・第四回全国高等学校空手道選手権大会  
於 岡山県(八月)  
個人組手の部、団体組手の部ともに予戦で敗退。

愛知県の空手道における高校のレベルは残念ながらまだ低い。活躍の歴史、参加する高校の規模などの差が単的にあってその原因であらう。

九州熊本勢、東京勢が全国大会のメインで大会二日目になるとほぼこの連中が大会の主役で優勝戦列に躍り出ている。

残念至極。

▽水泳部△



わが愛知勢も東邦を中心にチームの強化をはかり、なんと一矢むくむべく日夜精魂をかたむけて練習に励んでいる。

七十七年、水泳部は大いに頑張りました。インターハイで入賞することなどの目標をもち毎日苦しい練習に耐えてきて、かつ選手と先生のつながりそして、どこへ遠征しても、東邦の名をけがさない姿生を苦しい練習によって選手一人一人が身につけました。

県高校水泳大会では総合第二位、東海大会にも総合一位という成果を上げました。

又、インターハイで入賞するという目標をけし忘れておらず、四〇〇Mではおれくも入賞をのがしたものの、八〇〇Mでは、第一泳者・酒井、第二泳者・加藤、第三泳者・杉本、第四泳者・宇佐見というメンバーで、みごと六位入賞をはしました。

▽アーチェリー部△



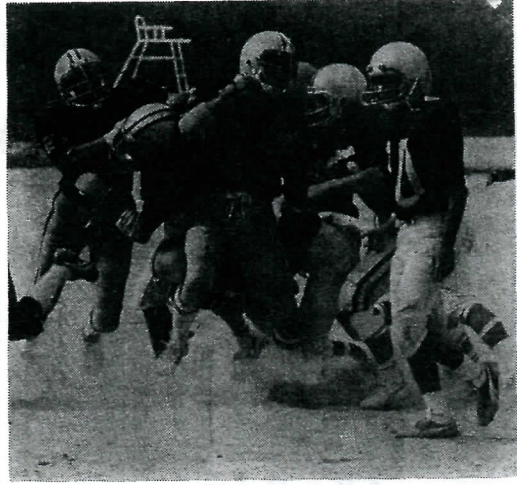
愛知県予選を終く、三年生遠山明敏が全国大会に愛知県個人代表として駒を進めました。

七月三十一日、全国大会は富城県秋保町「秋保森林競技場」で開催されました。しかし武運つたなく、三〇M・五〇Mで総合五五位、一点で惜しくも入賞を逸しました。

十月九日、県高校新人大会にて二名が入賞。

十一月二十日、第一回ヤマハ杯争奪アーチェリー大会高校の部において二年生林直人が二位に入賞しました。

▽アメリカンフットボール部△



アメリカンフットボール部

十一月二十六日、第八回全国高等学校アメリカンフットボール選手権大会が西宮高校校庭にて行われ、広島島の雄、崇徳高校と対戦しました。愛知県内三校の代表校として出場した本校チームは、接戦の末、惜しくも時間切れ寸前ワンタッチ・ダウンを奪われ、涙のみ

対崇徳戦 〇-〇  
で敗れました。試合終了後、二年生の多くの選手がくやし涙を流し、来年こそ必勝を期して、帰名の途についた。この試合に見られたことは、一・二年生の懸命なフンバリと、三年生のフォローにより、難敵・崇徳高校に今一步と迫った点で、今後、更に一層の練習と研究を積み重ねていきたい。